

歯科衛生士口演

(B会場)

B 会 場

HO-01

6月4日 (土) B会場 9:00~9:10

HO-1

長期のサポータティブペリオドンタルセラピーにより
改善した広汎型慢性歯周炎の一症例

佐藤 昌美

キーワード：サポータティブペリオドンタルセラピー、広汎型慢性歯周炎、歯周基本治療

【症例の概要】歯周治療によって得た口腔健康の維持増進にはSPTによる管理が極めて重要である。今回、広汎型慢性歯周炎に対するSPTに歯科衛生士が関わり良好な経過を得た一例を報告する。患者：40歳男性、初診日：2005年3月。主訴：歯ぐきからの出血が止まらない。【診査・検査所見】総歯数28歯、PPD4～6mm45.2%、7mm以上23.8%、BOP57.1%。X線写真にて水平性骨吸収を認めた。

【診断】広汎型慢性歯周炎（Stage III Grade C）

【治療方針】1. 歯周基本治療 2. 再評価 3. 歯周外科治療 4. 再評価 5. 口腔機能回復治療 6. SPT

【治療経過・治療成績】2005年3月～2007年7月：歯周基本治療により全顎的なPPDは2～6mmに変化し補綴治療を行った。2007年8月～2013年1月：SPTに移行し、モチベーションの強化、セルフケアの確認、歯周組織検査、カリエスチェック、咬合診査、歯石除去を含む処置、再治療を実践。2013年2月～2018年2月：全顎的なPPDは2～4mmに改善しSPTを継続。2018年3月～2021年8月：36・37にBOPが認められ歯周基本治療と生活習慣の改善に取り組み、1ヶ月間隔でリコールを行った。2021年9月～：PPD4～6mm1.8%、7mm以上0%、BOP0%、X線写真診査において歯周組織の安定が認められた。

【考察・結論】本症例はSPTを14年間継続し、歯科衛生士がブラークコントロールと日常生活上の指導に取り組みうまく奏功したと思われる。SPTの効果により口腔健康の維持増進が見られたことから、計画的に口腔内の管理をする重要性和歯科衛生士の役割の大きさが示唆された。